

国語 第1学年 おもいうかべながら よもう 授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版の令和6年度版『国語』第1学年下巻に載っている物語。単元名と配当時数は光村図書の年間指導計画例（10月）による。ほかの会社の教科書を使う学校は、同じ指導事項（C(1)エ・(1)ウ）を扱う物語の単元に置き換える。

この単元で子どもが最後にできるようになること

この単元を終えた子どもは、物語の会話の文にかぎが付いていることと、それがだれの言葉かを確かめて読める。そのうえで、場面の様子に着目して子どもたちの行動を具体的に想像し、どの言葉からそう思い浮かべたかを言いながら、声の出し方や動作に表して音読し、友達の音読のよいところを伝えられる。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第1学年及び第2学年〕の目標 (2)	(2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。
〔第1学年及び第2学年〕の目標 (3)	(3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)ウ	ウ 長音、拗《よう》音、促音、撥《はつ》音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)ク	ク 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(3)エ	エ 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。
〔第1学年及び第2学年〕C読むこと(1)イ	イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。
〔第1学年及び第2学年〕C読むこと(1)エ	エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。
〔第1学年及び第2学年〕C読むこと(1)カ	カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。
〔第1学年及び第2学年〕C読むこと(2)イ	イ 読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(1)	(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。

学習指導要領の項目	原文
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(3)	(3) 第2の各学年の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とし、必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、指導の効果を高めるよう工夫すること。なお、その際、第1章総則の第2の3の(2)のウの(イ)に掲げる指導を行う場合には、当該指導のねらいを明確にするとともに、単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(6)	(6) 第2の第1学年及び第2学年の内容の〔知識及び技能〕の(3)のエ、第3学年及び第4学年、第5学年及び第6学年の内容の〔知識及び技能〕の(3)のオ及び各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」に関する指導については、読書意欲を高め、日常生活において読書活動を活発に行うようにするとともに、他教科等の学習における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(7)	(7) 低学年においては、第1章総則の第2の4の(1)を踏まえ、他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(9)	(9) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(2)	(2) 第2の内容の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(1)	(1) 教材は、第2の各学年の目標及び内容に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成を通して読書習慣を形成することをねらいとし、児童の発達段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。

単元の目標

かぎ（「 」）の使い方を理解して文や文章の中で使い、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する（(1)ウ・ク）。場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる（C(1)イ・エ）。言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、思いや考えを伝え合おうとする（学年の目標(3)）。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①かぎ（「 」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（(1)ウ） ②語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（(1)ク）	①「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（C(1)イ） ②「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（C(1)エ）	①進んで、場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習の見通しをもって、想像したことを音読や動作で表そうとしている。

単元の流れ

全8時間。光村図書出版の年間指導計画例（令和6年度版）は、この単元に8時間（知識及び技能1・読むこと7）を配当している（10月）。かぎの使い方を扱う第3時が知識及び技能の1時間に当たる。次ごとの内訳（2・5・1）はこちらの案。学校の年間指導計画が違う時はそれに合わせる。国語の標準授業時数は第1学年で年間306単位時間（学校教育法施行規則 別表第一）。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○範読を聞き、好きな場面と、そのわけを話す。 ○学習の見通しをもつ（場面の様子を思い浮かべて、動作をつけて音読しよう）。	態①（行動観察）
	2	○場面を分け、だれが出てきて、何をしたかを確かめる。	思①（ノート・発言）
第2次	3	○会話の文を見付け、かぎ（「 」）が付いていることと、だれが言ったかを確かめる。 ○自分でかぎを使って、友達と話したことを文に書く。	知①（ノート）
	4	○くじらぐもが現れ、子どもたちと同じように体操をする場面を読み、子どもたちとくじらぐもの行動を想像して動作で表す。	
	5 （本時）	○子どもたちがくじらぐもに乗る場面を読み、とび上がる子どもたちの行動を想像して、声や動作に表して音読する。	思②（吹き出し・行動観察）
	6	○くじらぐもに乗って空を進む場面を読み、子どもたちの様子と、見えた物を想像する。	思②（吹き出し）
	7	○学校に帰り、くじらぐもと別れる場面を読み、子どもたちの行動を想像して音読する。	知②（音読の観察）
第3次	8	○好きな場面を選んでグループで音読発表をし、聞いた感想を伝え合う。 ○学習を振り返る。教室や学校図書館にある物語の本を紹介する。	知②（音読発表） 態①（振り返り）

本時の案

本時の目標：子どもたちがくじらぐもに乗る場面の様子に着目して、とび上がる子どもたちの行動を具体的に想像し、想像したことを声や動作に表して音読できる。(C(1)エ)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	1 前の時間の場面を、動作をつけてみんなで音読する。 2 本時の問いをつかむ。 ○「子どもたちは、くじらぐもに乗れたでしょうか」 【めあて】子どもたちがくじらぐもに のる ところを、ようすをおもいうかべてよう。 〈予想される児童の反応〉 ・のりたいて 言っていた。 ・のれたと おもう。 ・どうやって のったのかな。	・前の時間に書いた吹き出しを黒板の端に残しておく。 ・本時の場面の挿絵は使わず、言葉から思い浮かべることを先に伝える。
展開 (分)	3 先生の範読を聞き、一人で音読する。 4 子どもたちの行動を確かめる。 ○「子どもたちは、どうやって くじらぐもに のろうとしましたか」 5 とび上がる様子を想像する。 ○「はじめに とんだときと、あとで とんだ ときでは、どう ちがいますか」 ○「その とき、子どもたちは どんな 気持ちだったでしょう。どの ことばから おもいうかべましたか」 6 グループで役を分け（子どもたち・先生・くじらぐも）、動作をつけて音読する。 7 二つのグループの音読を見て、よかったところを言う。 〈予想される児童の反応〉 ・みんなで手をつないで、わになった。 ・かけごえをあわせて とんだ。 ・はじめは すこししか とべなかった。 ・くじらぐもが おうえんしてくれた。 ・なんども とんで、だんだん たかく とべた。 ・かぜが ふいて、そらへ とんでいった。 ・もっと たかく とびたい。 ・くやしいけど、がんばろう。 ・そらに とんで、びっくりした。 ・のれて うれしい。	・行動を確かめる時は、だれが何をしたかに線を引かせてから答えさせる。 ・とんだ順に、黒板に子どもたちの行動を書いていく。 ・気持ちを言った子には「どの ことばから」と返し、行動を表す言葉に戻す。 ・会話の文は、かぎの所を指でなぞらせ、だれが言ったかを確かめてから声に出させる。 ・台詞や叙述は、使う教科書から先生が書き入れる。 ・動作が大きくなりすぎる時は、立つ場所と動いてよい広さを先に決めておく。 ・音読が苦手な子には、先生と一緒に読む役か、かけ声の所だけを読む役を選ばせる。 ・早く終わった子には、くじらぐもが言った言葉をどんな声で言ったらよいかを考えさせる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ （分）	8 くじらぐもに乗った時の子どもたちの言葉を想像して、吹き出しに書く。 9 振り返りを書く。 （型）「…の ところを、…の ように よみました」	・吹き出しが書けない子は、先生に話して伝えてもよいことにする。 ・振り返りは、どの言葉から声や動きを考えたかが入っていればよいことにする。 ・次の時間は、空を進む場面を読むことを伝える。 ◎思② 子どもたちがくじらぐもに乗る場面の様子に着目して、子どもたちの行動を具体的に想像している。（吹き出し・行動観察）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から。右端に日付・題名・めあて。その左に、とび上がる場面の子どもたちの行動を、とんだ順に右から左へ矢印でつないで書く。行動の下にそれぞれの時の子どもたちの吹き出し（子どもの言葉で）。くじらぐもの言葉は先生が教科書から書き入れ、かぎの部分の色チョークで囲む。中ほどから左に、音読の工夫（声の大きさ・速さ・動き）と、どの言葉からそうしたかを並べる。左端に振り返りの型。

つまずきやすい所と手当て

つまずきやすい所は五つ。一つ目、会話の文と、そうでない文の区別がつかず、だれが言ったのかが混ざる。手当ては、かぎの所を指でなぞらせ、言った人の名前を上にかかせること（(1)ウ）。二つ目、動作化が楽しくなり、叙述から離れた動きになる。手当ては、動く前に「どの言葉から」その動きにするかを言わせ、動いた後にも確かめること（C(1)エ）。三つ目、気持ちを「たのしい」の一語で済ませる。手当ては、はじめにとんだ時と後でとんだ時を比べさせ、行動の違いから気持ちの違いを考えさせること（C(1)エ）。四つ目、場面が変わったことに気付かず、話の順序が混ざる。手当ては、場面ごとに子どもたちがいる場所（校庭・空・学校）を黒板に掲示しておくこと（C(1)イ）。五つ目、音読で語のまとまりを切って読み、意味がつかない。手当ては、まとまりごとに斜線を入れた本文で読ませ、先生のあとについて読む練習を入れること（(1)ク）。

プリントの案

場面の様子カード（単元を通して使う）

場面ごとに一枚。「どこで」「だれが」「なにをした」の三つの欄と、絵をかく枠。黒板に場面の順に貼り、子どもたちがいる場所（校庭・空・学校）が変わることを見えるようにする。C(1)イに合わせた。

かぎのワークシート

上の段に、会話の文を見付けて「だれがいったか」を書く欄（会話の文は先生が教科書から書き入れる）。下の段に、友達と話したことを、かぎを使って書く欄。かぎの始めと終わりを書く位置を、マス目の中に薄く印刷しておく。（1)ウに合わせた。

本時の吹き出しシート

とんだ順に吹き出しを並べ、それぞれの下に「どの ことばから」を書く小さな欄を付ける。いちばん下に、くじらぐもに乗った時の子どもたちの言葉を書く大きな吹き出し。C(1)エに合わせた。

音読カード

読んだ場面、読み方の工夫（声の大きさ・速さ・動き）に丸を付ける欄、どの言葉からそう読んだかを書く欄、家の人や友達のひとことの欄。（1）クに合わせた。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）（文部科学省）（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』（2020年）。評価基準の文末と3観点の形、「主体的に学習に取り組む態度」の評価基準の作り方（粘り強さ・自らの学習の調整）（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）／同 参考資料の一覧ページ（国立教育政策研究所）（<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>）／学校教育法施行規則 別表第一（国語の標準授業時数 第1学年306）。e-Gov法令検索（<https://laws.e-gov.go.jp/law/322M40000080011>）／光村図書出版 小学校国語 年間指導計画・評価計画資料（令和6年度版）の一覧ページ（<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s-kokugo/keikaku>）／光村図書出版 年間指導計画例 1年（Excel）「1年下巻」。单元名「おもいうかべながら よもう」・8時間（知識及び技能1・読むこと7）・10月の出典（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/088f2846-983b-455d-b185-6c3a18a27671/368）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

